

事例研究論文の検討を中心とした授業実践

心理発達臨床専攻・信原孝司

1. 概要（目的・到達目標）

本授業は、前期科目『臨床心理面接特論1』で扱った心理療法の展開を踏まえて、事例研究の視点から力動的心理療法への理解を深めることを目的としている。到達目標は、心理療法の実際を学び、人で考えて自分で実践できるように、すなわち実際の臨床実践で応用できるようになることである。

2. 導入

授業初回では、今後の授業予定を学生に周知することで、学生が今後の見通しを持って授業時間外の学習に取り組みやすくする効果を期待している。今年度は、以下の授業内容で実施した。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事例理解について
- 第3回 臨床心理事例1【不登校】
- 第4回 臨床心理面接1【不登校】
- 第5回 臨床心理事例2【神経症】
- 第6回 臨床心理面接2【神経症】
- 第7回 映画を通して臨床心理面接を考える1
- 第8回 ディスカッション
- 第9回 臨床心理事例3【心的外傷】
- 第10回 臨床心理面接3【心的外傷】
- 第11回 臨床心理事例4【パーソナリティ障害】
- 第12回 臨床心理面接4【パーソナリティ障害】
- 第13回 映画を通して臨床心理面接を考える2
- 第14回 ディスカッション
- 第15回 振り返り・レポート提出

3. 授業の方法と形態

1回目と2回目の授業は、授業者がオリエンテーションを兼ねて講義形式で施行した。1回目では共感や心的コンプレックス等に関する問い掛けを行い、前期授業の復習をしながら、後期授業の予定に触れた。2回目は「事例研究と心理臨床」のテーマで、授業者が講義しながらディスカッションを行い、事例理解の大切さや意義について理解を深めた。

臨床心理事例1～4は調べ学習が中心である。まず履修生に、不登校・神経症・心的外傷・パーソナリティ障害から担当テーマを選んでもらっ

た。そしてテーマに沿った事例研究論文を分析して発表レジュメを作成し、授業当日の発表と他の履修者とのディスカッションを行った。

臨床心理面接1～4では、特に、臨床心理事例での発表で取り上げられなかったり、あるいは重要な内容や希薄な領域を中心に上げた（講義+ディスカッション形式で授業を行った）。

その他、映画を通して臨床心理面接を考える1・2では、『Ordinary People』（邦題『普通の人々』）と『Another Woman』（邦題『私の中のもう一人の私』）を取り上げ、映画を視聴した上で臨床心理学的な視点からディスカッションを行った。

4. 授業を振り返って・アンケート結果

履修生提出のレポートでの授業評価を中心に、授業を以下に振り返った。

コメントでは、質の高い様々な事例研究に触れる機会を持てて、今後の臨床実践に有意義であったとのコメントが多かった。また、他の履修生とのディスカッションによって視野が広がったとの声も多かった。一方で、課題としては、発表とディスカッションとの時間配分が残った。事例研究論文の発表に、もう少し時間を割きたかった等とのコメントもあった。およその時間配分を事前に示したり、調べ学習の発表で取り上げたいキーワードを事前に提示する等の工夫の余地があった。また、ディスカッションが一方通行になることもあり、相互的な話し合いに持っていく難しさを履修生は感じていた。

授業形態では、授業者からの講義と、担当グループの発表+授業者からの補足をセットにして、心理臨床課題を考える映画の視聴+ディスカッションという構成は支持が多いので、今後もこのスタイルを工夫しながら継続したい。

履修者の授業時間外学習もあって、授業進行はスムーズであったが、自分達が発表担当で無い時の事前調べは不十分であった。今後は小グループでのディスカッションも織り交ぜながら、履修者との相互性を引き出すような工夫のあり方も検討したいと考えている。